

松江市史講座 松江の明治建築

平成 26 年 12 月 20 日

1. 背景としての松江の幕末

豊かな財政で 軍艦 2 隻を購入 他藩では 5 藩のみが購入できた
軍隊強化のためフランス人の教官を雇い入れ ワレット、アレクザンドル
医療、野菜、散髪、語学、飲み物、フランス語
多くの留学生を派遣 医学、建築、法学、土木
入江文郎、山口半六
松江藩ビール会社も横浜にあった
幕末日本の建造物はサーベイヤールと呼ばれるなんでも屋が活躍
薩摩 長崎 横浜 東京
トーマス・J・ウォートルス：築地ホテル
リチャード・P・ブリッジンス：内務省、東京大審院
アメリカからの頃にあるデザインとヨーロッパのデザイン（パラディアニズム）の結合
→ 擬洋風建築 和魂洋才

2. 明治初期の松江

明治 4 年の廃藩置県後県庁誕生
その後統廃合を繰り返し、法令、行政制度の整備をしながら進む
明治 12 年 二代目県庁建設
二代目裁判所
明治 13 年 初代松江警察署
明治 13 年ごろまでが擬洋風建築の歴史

3. 明治の建造物

- ・行政建築：県庁、警察署、税務監督署、裁判所
- ・インフラ関連：電信局、発電所、郵便局、ガス施設、水道施設、鉄道施設
- ・学校建築：商業学校、修道館、松江師範学校、農林学校、松江中学
明治 23 年（1890）ラフカディオハーン来松
- ・金融機関：第三国立銀行（M37）農工銀行（M41）日銀（T7）、貯蓄銀行
- ・医療機関：種痘所、苧町病院、灘町病院
- ・娯楽建築：料亭（松崎水亭）芝居小屋（永徳座）
- ・嘉仁親王行啓：興雲閣、飛雲閣
- ・戦争関連：陸軍 63 連隊（M41） 鉄道、水道とも関連、灯台
- ・土木建造物：松江大橋